

災害支援ナース活動報告書

報告者：小林 賢市

所属施設：新潟県立新発田病院

報告月日：令和6年1月19日

活動日	令和6年1月12日（金）～1月15日（月）
活動場所	施設名：珠洲市正院小学校
活動内容	<p>金沢市内での前泊を終え、派遣先の珠洲市へ。道路の亀裂・陥没・崩落のため交通規制がかかる中、到着までに約7時間を要した。</p>  <p>我々災害支援ナースは、対策本部の組織として、「医療介護班」に属し、避難者の体調管理、感染症予防、環境衛生に注視することが大きな役割となる。避難者は約220名、高齢者が多く、小学校の各教室が避難場所となっていた。避難環境は決して良いものではなかったが、ある程度のコミュニティは確保されている印象を受けた。活動内容は、以下の通りである。</p> <p>〈体調管理〉発災から10日以上が経過し、心身の健康が阻害されていることが予測され、早急な健康観察と本部との情報共有が必要と考えた。一日数回の巡視で健康観察を実施し、有熱者の把握やその他症状に対する対処療法的な関わりを一覧にし、体調変化を追跡できるよう健康観察を継続し、また必要に応じ診療へ繋げることとした。市販の内服薬・外用薬は豊富に常備されていたため、症状に合わせて渡し、外傷などへの処置にも利用した。不足が生じる恐れがあるものに関しては、日赤薬剤師チームに情報提供し補充を依頼した。時期にもよるが感冒症状を訴える方が多かった。</p> <p>〈感染症予防〉到着早々にCOVID陽性者（2名増え、計5名）の隔離について検討し、部屋移動を実施。医療施設とは異なるため完全な隔離は困難であったが、その中でも拡大を防止できるよう一室を感染者の避難部屋として設けた。その後も発熱者は多かったが、検査していないため感染拡大防止に繋がれたかは不明。幸いにも電気は通り暖房も使え、室内では寒さを感じることはなかったが、換気という面では十分とは言えず、定期的に声掛けし避難者の理解を得ながら実施した。更に水は貴重な資源であったが、手洗い・うがいの啓蒙に努めた。</p> <p>〈環境衛生〉トイレ環境の整備（清掃、ゴミ回収、物品補充）、うがい場（清掃、ゴミ回収）、室内外の清掃、共有スペースの清掃・清拭などを実施。</p> <p>〈生活介護等〉1月14日二次避難が始まり、55名が退去。それに伴い要支援・要配慮者が避難所に残り、その方々の住環境の整備や生活介護等を支援ナースが担うこととなり、防災士の協力を得ながら実施。</p> <p>〈その他〉1月15日、小学校の再開に伴い、避難場所として使用していた部屋を空ける必要があった。避難部屋の移動やテント型パーテーションの組立・設置など大きな労力ではあったが、これに関しても防災士の協力を得て実施。</p> <p>対策本部には避難者名簿があるものの、各避難部屋には誰と誰が在中し、計何人が居住しているのかは把握できていない。紙面に部屋の簡略的な見取り図を作成し、そこに現病歴・既往歴や継続して服用している薬、継続して観察が必要なことなど聞き取った内容を書き記した。随時更新が必要となるが、現時点での内容として後続隊への引継ぎにも活用できた。</p> <p>以上、簡単ですが活動の内容についてまとめました。</p>
所感	<p>非日常を目の当たりにする中で、自分自身何が出来たかは不明です。決して容易ではありませんでしたが、支援ナースとして少しでも活動できたことに感謝します。</p>